

# めいわ竜洋保育園



遊戯室 2 階から園庭を望む  
中央のブリッジが内外の活動エリアをつなぐ

## 遊びが流れ、堤が育む

このプロジェクトは、「特別な遊具はいらない。子どもたちが自由に遊べる環境さえあれば十分だ」という施主の理念と、子どもの心と身体の感性を育む「はだし保育」という保育方針を踏まえて、子どもたちが自ら遊びを見つけ、身体を使って空間を探索できるような環境づくりを目指した。

敷地は、浜松市と磐田市の間を流れる天竜川近くに位置し、南北に広がる河川敷や堤、橋など生活と自然が共生している環境がこの地域の原風景を形成している。天竜川の雄大さを享受する一方で氾濫への備えも必要とされ、「あそぶ」と「まもる」、「ひらく」と「とじる」といった相反する条件を両立させることが求められた。

この園は、川の流れや堤の起伏のような環境で、高低差を自由に行き来したり、対岸にあるボリュームに向かってブリッジでつながるなど、空間の連続性や回遊性を持つ建築を目指した。

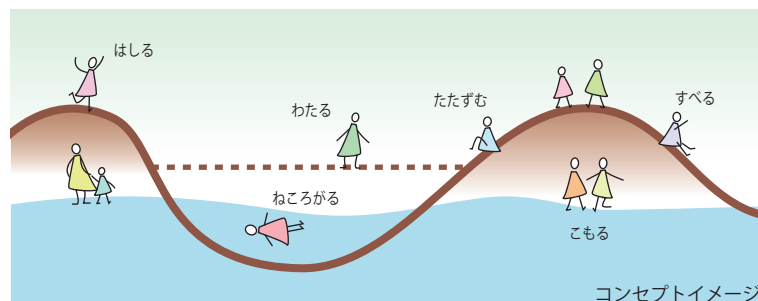
河川敷や堤をはだして駆け回ったり、橋の下で自分の居場所を作り出すように、この建築のルールに縛られない寛容な環境が、子どもの創造性を育み、感性を養っていくことを期待している。



天竜川を横断する橋



土手で遊ぶ子どものイメージ



コンセプトイメージ



東側から園全体を望む  
園舎と園庭が一体となる建築を目指した



MEIWA  
RYUYO

南東側上空より園舎園庭を望む  
園庭と屋上テラスの2つの屋外空間と園舎をブリッジや階段・スロープで繋ぎ、ぐるぐると回遊できる立体的な活動の場とした

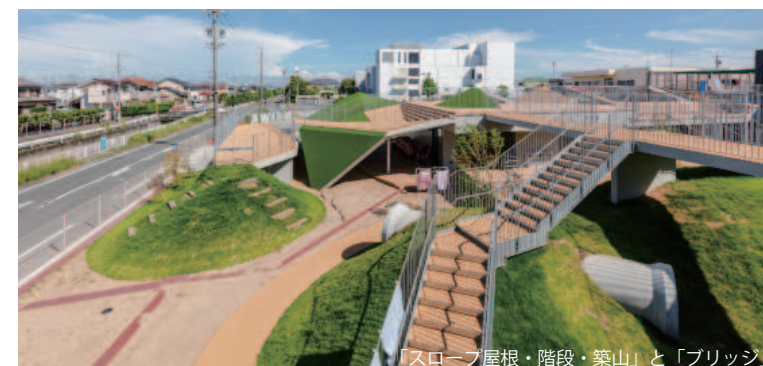


南側上空から園舎全体を望む  
周辺環境と保育環境に配慮した園庭を囲むコの字型の園舎

## 川と向き合い、遊びながら備える

敷地は、天竜川の氾濫が想定される地域に位置しており、浸水被害に備える環境づくりが求められた。

子どもたちの日常的な遊びの中で自然に避難行動が促されるよう、園のどこからでも2階へアクセスできる上下移動となる「スロープ屋根・階段・築山」、南北に配置した保育室棟をつなぐ水平移動となる「2つのブリッジ」を設けることで、園全体の避難性と回遊性をともに高める建築を目指した。



「スロープ屋根・階段・築山」と「ブリッジ」



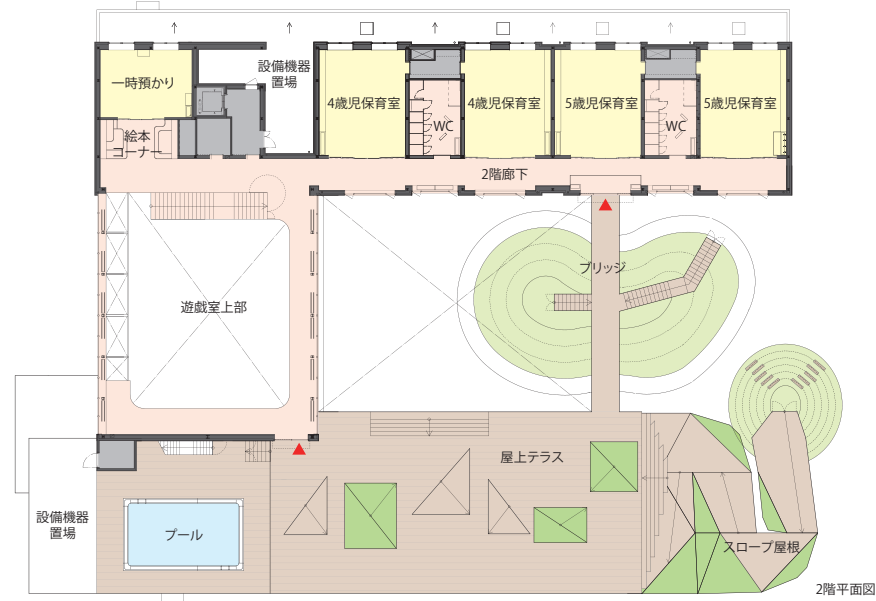
## 「うち」と「そと」をぐるぐるまわる

保育室からそのまま外へ、遊戯室からそのまま外へと遊びが止まることのないような連続性のある動線を優先した。保育室の建具は引戸とし、全て開放し廊下や園庭と一体的に利用することが可能となっている。屋上テラスは園庭からのつながりだけでなく、2階遊戯室・2階廊下とつながる遊び場となっている。

遊戯室と連続した園庭を園の中心に据え、南北に配した園舎を2つのブリッジでつなぎ、園舎の一体感をつくと共に、立体的に回遊可能な遊び場とした。

また、遊戯室は日常的な遊び場としても積極的に活用出来るように、昇降口を兼ねており、2階へと続く階段は毎日の通り道となっている。目隠しとなっているルーバーは放射冷暖房の機能を併せ持つ。

園の中心に据えた遊戯室や園庭・屋上テラスは異年齢交流の場としても活用される。各歳児の活動が互いに垣間見えることで、上下階の視点の変化や上下移動等、子どもたちにとって視覚的な刺激となり、自発的な遊びが誘発される事を期待している。



遊戯室西側を望む  
昇降口を兼ねている遊戯室1階、回遊的な遊び場の遊戯室2階  
放射冷暖房を間仕切りとしても利用し、木質系の仕上により温かみの感じられる空間とした



2階廊下を望む  
建具を開け放して一体的に利用可能な廊下と保育室  
園庭との視覚的な繋がりも感じられるよう大きな開口部を設けた



屋上テラスから園舎方向を望む  
遊戯室と2階廊下と繋がる回遊動線となっている  
屋上テラスの一部をめくり上げ、遊び場兼保育室の採光を確保している

